高知大学共通教育広報誌［パイプライン］

PipeLine

54
2019.12

特集

分科会「キャリア形成支援科目」「スポーツ・健康」

No.54 Contents

特集／分科会 「キャリア形成支援科目」「スポーツ・健康」	P1~4
教養のページ 囲碁とAI	P5～6
FD部会報告 「よい授業」ってなに？（ふたたび）	P7～8
Information 共通教育実施委員会からのお知らせ	P9

キャリア形成支援科目分科会

キャリア形成支援科目分科会長
山口　晴生

昨今、キャリアあるいはキャリア形成という言葉が当たり前のように使われています。高知大学も例外ではなく、例えば初年次科目では「学びの転換」「基礎的スキルの修得」「学問への動機付け」とともに「キャリア形成」というものが目標に位置づけられています。また、教養科目群の中にはキャリア形成支援科目という区分が設けられているほどです。我々になじみ深いキャリア形成ですが、きちんと説明できるでしょうか、どのように取り組めばいいのでしょうか。せっかくの機会なので、キャリア形成というものを考えてみたいと思います。

1.キャリア形成とは？

英語でいう“career”とは、①経歴・経験、②特に専門知識・技術を要する職業（あるいはそれに就いている人）のことを指します。

高知大学の学生・教職員を問わず、みなさんは今後（あるいは今）、自身の人生・生活を豊かにする仕事について考えるとともに、そこで不可欠となる知識やスキルを身につけていくことになります。それでは、どのような職業に就くのか？ その職務をまっとうする上で必要となる知識や経験は何か？ これらの問いかけに対して自ら計画的・具体的に応えていくことがキャリア形成と言えるのではないでしょうか。

2.高知大学で提供されているキャリア形成支援科目

このようなキャリア形成を支援することが大学教育の役割です。今、わたしの手元にある共通教育の履修案内を開くと、キャリア形成支援というものに区分される科目が数多く記されています。これらの約半数近くが「教職」に関わるもので、教職キャリア形成の支援科目として重要な位置づけにあります（パイプライン44号参照）。それとは異なる位置づけで、教職キャリアに直結しないものもたくさんあります。つまり教職に

関係なく、全学の学生が履修できるものです。これらのうち「大学生活入門」授業を参観する機会がありました。履修が推奨される対象は、大学生活をスタートさせた一年生、あるいは生活が落ち着いた二年生となっています。一年生の立場で授業の一部に取り組んでみると、キャリア形成支援のヒントを感じることができました。

この科目はe-learning形式で行われるので、学生は毎回、自身のパソコン上で授業を受けることになります。そこで出される課題をクリアしていくのですが、ここでe-learning形式かつ大学1年生（2年生）ならではの壁が生まれます。まず、授業あるいは課題のポイントを適切に把握しなければなりません。ここでは、限りある時間のなかで日本語を正確に読解することが求められます。続いて、自身の考えをコンパクトに要約していきます。場合によっては、図表なども駆使することで論旨をわかり易く説明するという能力が求められる点です。しかも、これらの作業は、すべてパソコンで行われますので、Officeなどのアプリケーションおよびキーボードを効率よく使えなければいけません。多数の授業を抱えている状況であればなおさらです。大学生にとって、読み書きや情報活用術に関する様々な知識・技能を習得しながら、授業の目標を達成していく・・・まさに“学業”そのものが、大学でのキャリア形成だと感じた次第です。

3. キャリア形成支援科目分科会

今回、「大学生活入門」を一部受講して、あらためてキャリア形成のあり方を考えさせられました。少なくとも教養科目単独では、効果的なキャリア形成支援を果たすことは難しく、やはり初年次科目あるいは他の分野の科目との連携が欠かせないでしょう。例えば、初年次科目のいくつか――日本語の読解を鍛える「学問基礎論」、情報リテラシーやパソコンのイロハを学習する「情報処理」―― が連携すべき科目として挙げられます。

キャリア形成の重要性が高まるなか、その支援に関わるカリキュラムを編成・整備することは大学運営において極めて重要であり、この編成を他の分科会と連携して行うのがキャリア形成支援科目分科会です。来年度にむけた編成作業で頭が痛くなりそうですが、これも大学教員にとってのキャリア形成支援かもしれません。皆様のお力添えを。

特集 分科会「キャリア形成支援科目」「スポーツ・健康」

スポーツ・健康分科会

スポーツ・健康分科会長
矢野　宏光

継続的な運動が「折れない心」をつくる

『スポーツ・健康分科会』では、朝倉、物部地区におけるスポーツ・健康に関する実技と講義科目を提供しています。2019年度は、実技科目では「スポーツ科学実技」（16授業題目）、講義科目においては「スポーツ科学講義A・B・C・D」「健康A・B・C・D」「アルコール学概論」「一般学生のための医療と医学の知識」「地域の中で剣道を学ぶ」（11授業題目）、合計27授業題目を開講しています。どの科目も担当教員の専門性が生かされた授業内容になっています。

ところで、皆さんは「レジリエンス（Resilience）」という言葉を耳にしたことがあるでしょうか？ この言葉、もともとは物理学用語で「弾性」を意味しますが、心理学的には「困難あるいは脅威的な状況にもかかわらず、うまく適応する過程、能力、あるいは結果」と定義されています。つまり、レジリエンスとは、逆境（脅威的な状況）から這い上がること、傷つき落ち込んでも通常の状況に立ち直っていくということの両方を意味します。日本では「回復力」「心の強さ」「生きる力」という意味で使われることが多いようです。

スポーツアスリートの中では、ソチ五輪（2014）・平昌五輪（2018）２大会連続優勝した羽生結弦（はにゅう ゆづる）選手（フィギュアスケート）のレジリエンスの高さが注目されています。2014年11月の中国杯、羽生選手が20歳のときの出来事。フリープログラム直前の６分間練習で中国の閻涵（えんかん）選手と衝突し、顎を７針と頭を３針縫う大ケガをしながらも競技を続行し、銀メダルを獲得。その後もケガの影響を抱えながらも、最終的には逆境を乗り越えて日本人初となるグランプリファイナル２連覇という偉業を成し遂げました。

レジリエンスの高さ

Resilience

実はこの羽生選手、２歳の頃から喘息を患い、肺を大きく開いて息を吸い込むことができないために体力・持久力面で劣るというハンディを背負いながら競技を続けてきた人なのです。

また、2011年３月には東日本大震災で被災し、自宅も甚大な被害を受け避難所生活も経験しました。ホームのスケートリンクは閉鎖、彼は練習する場さえ失ってしまいます。そのような中で羽生選手は練習場を求めて全国を転々としながら競技生活を続けたのです。その過程では、震災によって多くの死者や行方不明者を出している時に、自分はスケートを継続していて良いのか苦悩もしました。けれど、こんな時だからこそ、被災者に元気と勇気を与えるためにもスケートを続けるべきだと意欲を取り戻し、競技生活を続行することを決意したのでした。どのような逆境にも屈しない羽生選手のレジリエンスは、様々な体験の中でつくり出されたものです。スポーツ選手に限らず、このストレス社会にあってレジリエンスの獲得は「心身の健康」を維持するために欠くことのできないものだと言っても過言でないでしょう。

近年の研究から、レジリエンスは16歳から22歳くらいまでの年齢で最も強くなり、その後は年齢を追う毎に低下していくことが報告されています。また、定期的な運動を継続している人は高いレジリエンスを維持していることも確認されています。すなわち、これらの研究結果が意図することは、レジリエンスは大学生までに高めなければいけないもので、その維持にあっては運動の継続的な実施が有効であるということです。

スポーツや運動には、身体的な恩恵だけでなく、心理的、社会的にもさまざまな恩恵があります。学生の皆さんの中には、“大学生になってまで「保健」「体育」だなんて…”、そのように考えた人もいるのではないでしょうか。けれど、正しいスポーツや健康の知識を学び、それを実践する習慣が形成されることが、不意に訪れる「逆境」にも心折れることのない「強くてしなやかな心」を育む備えになるとすれば、スポーツや健康の授業に対する見方も違ってくるはずです。

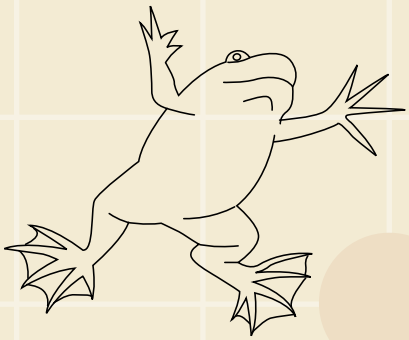
授業内容や履修に関する詳細については、「履修案内（共通教育）」や「教務情報システムKULAS（WEB上）」を参照して下さい。

教養のページ

囲碁とAI

教育学部　山口　俊博

私は現在、「トポロジー」というものを研究している。これは「やわらかい幾何学」ともいわれたりするが、要するに「モノのつながり具合を調べる数学」のことである。しかし、学部学生時代は数学科ではなく生物学科に所属しており、卒論のテーマは、「アフリカツメガエルの背軸形成について」という発生学の一つであった。これは、もともと均一に成分分布しているはずのカエルの卵から、どのようにして、いつ、（オタマジャクシとしての）前後が決まるのだろうかという実験研究である。がさつな私が一本の髪の毛をループ状にしたものを使って、人工授精したての卵と日々格闘していた。ただしそのときの指導教官からは私は要注意学生であったろう。なぜなら夜中に実験室で、夜食としてサンマを焼いて翌朝匂いがひどくて怒鳴られたこともあったし、卒論発表日の前夜、研究室のプロジェクターでの発表の練習をする際、冷蔵庫の電源を５分ほど拝借のつもりでコンセントを抜いたのだが、練習後コンセントを差し戻すのを忘れてしまって、ツメガエルのエサである冷凍庫の中の大量の牛レバーが溶けてしまったそうで、これまた激怒された。その直後の発表がやりづらいのなんの…。以来この気色悪いカエルとは出合ったことはないが、「ああ、アフリカツメガエル、やっててよかったな～」と思えるときは来るのだろうか？せっかくだから教養の一つということにしておこう。



サークル活動では美術部に所属していた。部室（ぶしつ）に泊まり込み焼酎呑みながら100号の油絵とかも描いていたが、現在は残っていない。学生闘争時代の名残もあってか、新聞部の大先輩から、昼休みに（授業料値上げや安保の何とか反対とかの）デモ行進に駆り出されたりした。「デカンショ※で半年暮らし、あとの半年は寝て暮らせ」ということで、バンカラを良しとし、講義はよくサボり、喫茶店にたむろ、部室でコンパ、あげく留年したのは当然だった。ヒゲは伸ばし放題、坊主頭でジャージにセッタ、女性と手をつないだこともない、懐かしくも寂しい青春だった。当時はそれでカッコいいと思っていたのだからアホとしか言いようがない。

それからアッという間に30年以上たち、気がつけば奥さんの尻に敷かれ、世間を見渡すとAI時代の到来ということで、まさに浦島太郎の心境である（って、いつカメを助けた？）。トポロジカルゲームともいえる囲碁が大好きな私がAIの

「布石」VS「ヨセ」

存在にびっくりさせられたのは、2016年3月。世界トップクラスの囲碁棋士のイ・セドルがGoogleの人工知能のアルファ碁に1勝4負で負けた！ 興味ある方はこの5戦の模様をYouTubeでご覧いただきたい。当時こうなることは誰も予想できなかったそうであるが、今ではすべての囲碁棋士がAI先生の打つ一手一手を正解と言ってはばからない。

ところで「考える」とはどういうことだろうか？そもそも人はよく「物語」にして（美化しつつ？）頭を整理すると思うが、AIはどのように考えるのか興味深い。

囲碁での教養とは「定石」であろう。定石とは、自分がこう打てば、相手がこう打つはずだから、それを受けてこう打つべしという、先人たちがこれまで蓄積してきた手筋のことである。人間はこれを道具とし、大局観による「布石」によって物語を作り上げながら対局するが、AIは何も知らず最初から計算による読みである「ヨセ」をしているのだそうだ。つまり土台からして異なるものということだろう。しかしその威力が2016年3月に証明された！さあ、これから人間はどのように人工知能と付き合っていけるのか、ハラハラしながらもワクワクしている。

(※)「デカンショ」は、デカルト、カント、ショーペンハウエルの略

「よい授業」ってなに？（ふたたび）

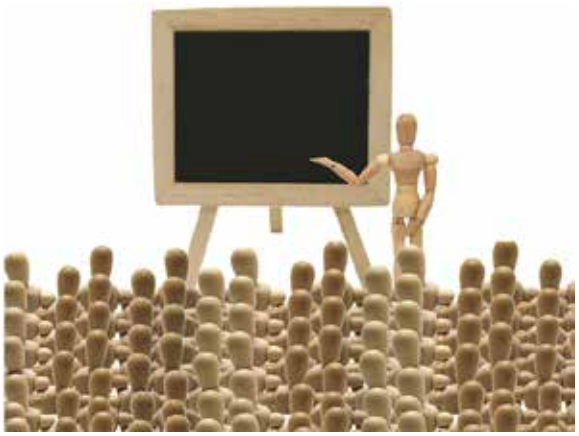
共通教育実施委員会 FD 部会長
川本　真浩

今年度から共通教育実施委員会のＦＤ部会長を務めることになりました。ＦＤ部会やＦＤといっても、何のことか分からない人も少なくないでしょう。“Faculty Development”という英語の頭文字２つをとってＦＤです。ちょうど１年前に発行された『パイプライン』52号に当時ＦＤ部会長であった高橋俊先生が「「よい授業」ってなに？」というタイトルでＦＤについて詳しく書いておられます。大学ウェブサイトに公開されていますから、そちらを参照してください。（http://www.kochi-u.ac.jp/gakubu/kyotsu-kyoiku/koho.html）

さて、ここでは、昨年の高橋先生の記事からタイトルを拝借して、私なりに「よい授業」について思いつくまま書いてみます。

「よい授業って何？」「イマイチ／ザンネンって思うのはどんな授業？」と問われたら、皆さんはどう答えるでしょうか。高橋先生が示唆されたとおり、「よい授業とは？」という問いに対する答えは千差万別、人によってバラバラかもしれません。その裏返しである「イマイチ／ザンネンな授業」もきっとそうでしょう。

ここではもっと具体的に考えてみましょう。「よい授業」とは、「自分が知りたいことをピンポイントに教えてくれる授業」「教員も学生も熱心にとりくんでいる授業」「授業をとおして豊かな知識や経験が得られる授業」「学外／地域の人たちとの接点があって視野が広がる授業」「いつも笑顔で楽しくすごせる授業」・・・模範解答ではなく、もっとブチマケたらどうなりますか？「楽勝で単位がもらえる！授業」「出欠や遅刻にうるさくなくて、安心して内職ができる授業」「教員が学生を指名して授業内容に関する質問を投げかけてくる授業」「グループワークが中心で教員はほとんど何も言わない授業」は、「よい授業」でしょうか？「予備知識がほとんど無くても、その内容がとてもよく理解できる



授業」「高校で学ぶような平易なことを教えてくれる授業」「ある程度の知識が事前に正しく頭に入っていないと理解できない授業」はどうですか？

あらためて強調しますが、教員は「よい授業」をつくりあげようと努力しています。それは「給料をもらってやっている仕事だから」ではなく、大学での学びをとおして「個人そして社会がより良い方向に進んでいく」ことを念頭に、「高い意識」をもって授業に取り組んでいるからです。それゆえさまざまなＦＤでもって「よい授業」を探究しているのです。文系／理系を問いません。「役に立つ」「役に立たない」という安易な尺度とも無関係です。

私自身の話をすると、毎回ひとつひとつの授業を大切に考えながらも、むしろ１学期間の授業全体として「よい授業」であるように、と思っています。とくに講義の場合、15コマ×90分かけて教員が話したことを学生が全部覚えるなんてほぼ不可能です。細かい内容のほとんどは短時間のうちに忘れられてしまうかもしれません。他方で時間が経ってもなぜか意外なぐらい思い出される授業もあるはずです。私は、極論すれば、「長い人生で記憶に残ることがひとつでもあれば大成功！」というつもりで講義をしています。そのためにも、開講初回の話やシラバスで授業の方針や概要を適確に伝え、受講生が90分×15コマ有意義な時間を過ごせるよう、心がけています。

ほかの先生は私と異なる考えに基づいて全く別のタイプの授業をしているかもしれません。しかし、大学だってひとつの「社会」です。いろんな人がいろんなことをして成り立っています。授業の多様性も大切なことです。

あなたが思い描く「よい授業」はどんな授業でしょうか？それは周りの学生が考える授業と同じですか？もし同じでないとしたら、なぜ、どのように違うのでしょうか？自分なりに考え、友人と話してみるとよいかもしれません。

共通教育２号館改修について

令和元年の９月から令和２年３月までの予定で共通教育２号館の改修を行います。外壁の修繕や教室の雨漏りなど建物の老朽化への対応、教室内の古くなった机、椅子、スクリーン及びプロジェクター等の物品の更新を行います。

また、併せてエレベーターの設置を行います。今まで共通教育２号館はエレベーターが設置されておらず、上階部の教室に車椅子の方の入室が困難となっていましたが、エレベーター設置とバリアフリー化により、体が不自由な方も利用できるように整備をします。

そのため第２学期は学生のみなさんにはご不便をおかけすることとなりますが、ご理解のほどお願いします。

なお、改修後の共通教育２号館は、令和２年度第１学期から使用開始となっています。

編集後記

今回の特集は、分科会の「キャリア支援」と「スポーツ・健康」でした。代表の先生方のメッセージによって、共通教育としてこれらの分野が何を目指しているかが具体的に分かったのではないでしょうか。特に、両分野は昨今社会的なニーズが高まっているといえます。学びがいのある科目を見つけて修学に励みましょう。社会のニーズに応えるとともに、きっと自己成長にも役立ちます。（T）

高知大学共通教育広報誌 PipeLine［パイプライン］No.54
発　行 / 高知大学共通教育実施委員会
編　集 / 共通教育実施委員会広報部会
〒780-8520 高知市曙町2丁目5-1
☎088-844-8168（学務課全学・共通教育係）
発行日 / 2019年12月
制　作 / ㈲西村謄写堂
□広報・記事についてのご意見をお待ちしています。
Mail : gm06@kochi-u.ac.jp